



2016(平成28)年2月号

寺院の未来

暦の上では立春が近づいています。毎日寒い日が続いており、先月は今年初となる雪が降り、境内の雪かきに一苦勞しました。また風邪やインフルエンザなど、この季節ならではの病気も流行しているようですので、皆さまもお気を付けてください。

さて先日、仏教系の新聞を読んでおりましたら興味深い記事を見つけましたので要約してご紹介いたします。浄土真宗の僧侶であり、寺院の住職を対象としたお寺運営塾「未来の住職塾」の塾長でもある松本紹圭氏が「伝統仏教寺院の世代交代」と題し、15年後の寺院の未来図を描き写されたものであります。

2030年、情報収集は紙媒体から電子ペーパーへと完全に移行している。経済の停滞、少子高齢化、家族の絆の弱まりから「檀家制度」は崩れ、経済格差は拡大するばかりで「檀家」として墓を守ることに熱心なのは、ほんの一握りの勝ち組クラスだけだ。

葬儀で僧侶が導師として読経することも珍しくなった。亡くなると早々に火葬を済ませ、小さなお別れ会を開くのが一般的。とはいえ、故人と親交のあった僧侶は客人として遺族から招かれる。僧侶の役目はかつての儀礼偏重から、宗教者としてのケアの領域へシフトした。

法事も「やらねばならないもの」から「やったほうがいいもの」へ、そして「やりたい人がやるもの」へと変わり、形式だけでなく意味と質が求められるようになった。故人と遺族に寄り添う「生死の専門職」として研鑽を積んだ僧侶が勤める法事と一連のケアは、社会的に高い評価を得つつある。

問題は、都市であれ地方であれ、変化に取り残された人たちの失業率の高さだ。運転手・農家・通訳・レジ係・配達員・外回り営業など、技術革新によってここ数年で消滅した職業も少なくない。僧侶も読経専門職としては消滅の危機に瀕している。

以前から「お寺が減る」と言われてきたが、大幅に減ったのは僧侶だ。専業で生計を立てられる僧侶の数はか

つての3分の1以下となった。

新時代の宗教者として研鑽を積んだ僧侶が活躍する一方、変化に対応できなかつた読経専門の僧侶は価格競争でしのぎを削る派遣企業の契約社員となり、縮小する儀礼市場で小さなパイを奪い合っている。

かつて死者と生者を媒介する役割を一手に引き受けたお寺。しかし様々な技術的進歩によって亡き人を偲ぶ手段・装置も大きく多様化・高度化を遂げている。脳とインターネットが直接つながる世界で、お骨が唯一の記憶のメディアではあり得ない。死とは何か。人間とは何か。今、僧侶の本質が根本から問われている。

現在から15年後、未来予測の一つとして松本氏はこのようなシナリオを描かれ、来るべき未来へ万全の備えができるようにと寺院や僧侶に対して警鐘を鳴らしています。これから僧侶として、いかにして寺院の護持発展のために行動すべきかを考えさせられました。皆さまはどのように感じられたでしょうか。

仏事あれこれ

仏事のQ&A

Q. なぜ葬儀を行うのか？②

A. 人の死は、いつどんなかたちで訪れるかわかりません。東日本大震災では、多くの人びとが津波に流され、行方不明になっている方もまだおられます。家族にとつては、その方の死を認めることはなかなかできないのが現実だろうと思います。

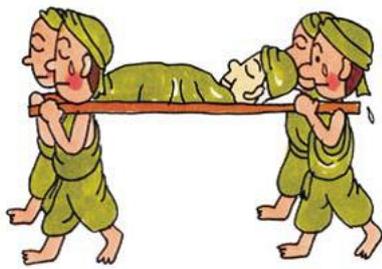
生活をともにしてきた親、あるいは子が死を迎えても、なお依然として再び目をさまし、食事をし、玄関から出て行く姿を脳裏に蘇らせて、もう二度と口を開くことなく、動き出すことができないと、きつぱりと割り切ることができない人はまれなのではないでしょうか。親しかった人の死を、試み出すことなくすんなりと受け入れることは、私たちにはなかなか難しいということとです。

そんな「生」に執らわれ、死の現実から目を逸らせがちな私たちに、一つのけじめとして死を受け入れさせ、一歩前に進む契機を与えるのが葬儀です。

葬という字は、原野に屍を安置するかたちですが、これは放置するのではなく、遺体の変わりゆくすがたを直視し、死を受け入れる行為を意味します。また屍や死という字は、残骨を拝するかたちの象形文字です。すなわち、亡き人の死を受け入れ、今後は亡き人を敬うべき存在として崇めていくことを表すのが「葬」という言葉です。

したがって、葬儀とは、亡き人のいのちを死で終わらせることなく、普遍的な価値を持って関わり続ける存在と私たちが受け止めていく儀式と言えるでしょう。

人は葬儀を行うことによつて、悲しみや悔恨の情を超え、それぞれの人生の次の一歩を踏み出すことができるとです。



『新・仏事のイロハ』より抜粋

お知らせ

きさらぎ
如月忌のご案内

期日：平成28年2月7日(日)

時間：13時～16時30分

場所：築地本願寺 和田堀廟所

(住所：杉並区永福1-8-1)

如月忌とは、仏教婦人会の創設や関東大震災の被災者支援など、多くの業績を残された九條武子様のご命日にあたり、そのご遺徳を偲ぶ法要です。九條武子様のご生前のご苦勞を偲ばせていただきますよう。

※法要に参拝される方は、当会館までご連絡ください。

平成28年の年回表

(ご法要のお申し込みをお忘れなく)

平成28年 年回表	
1周忌	平成27年
3回忌	平成26年
7回忌	平成22年
13回忌	平成16年
17回忌	平成12年
23回忌	平成6年
25回忌	平成4年
27回忌	平成2年
33回忌	昭和59年
50回忌	昭和42年

1月行事の様子

★除夜会・元旦会 12月31日(木)～1月1日(金) 23時30分～2時

平成27年を振り返り、新年を仏さまとともに迎えする除夜会・元旦会の法要をお勤めしました。深夜にもかかわらず、18名の方が参拝されました。

除夜会



除夜会では「讚仏偈」、元旦会では「正信偈」をお勤めし、主管の法話の後、参拝の皆さまと一緒におせち料理をいただきました。

元旦会



除夜の鐘



↑ 今年のおせち料理

懇親会



★御命日法座・新年会 1月16日(土) 13時～17時

宗祖・親鸞聖人の御命日にあたり、法要のお勤め、ご講師・七里順量師よりご法話をいただき30名の方が参拝されました。御法座終了後、新年会を開催し、懇親会やお楽しみ抽選会などで大いに盛り上がりしました。

ご法話



↑ご講師・七里順量師

法要



↑ 法要 「正信偈 (行譜)」

新年会



↑ 食事のことは

新年会では、お楽しみ抽選会を行い、1等～3等をはじめ、参加の皆さまにはそれぞれ、豪華景品が当たりました。(ちなみに1等・2等のご夫婦での大当たり！)

1等



2等



3等



東久留米会館の 行事案内

—Schedule—

▶ 2月の行事予定

常例法座

2月14日(日) 午後1時～

ご講師 熊原博文 師
(埼玉県 正善寺)
お気軽にお参りください。



親鸞聖人御命日お晨朝総参拝

2月16日(火) 午前7時～

月に1度、朝のお勤めにお参りしませんか?
お供物のおさがりをプレゼントいたします。

▶ 3月の行事予定

東日本大震災追悼法要

3月11日(金) 午後2時46分～

1万5千人を超える、多くの方が亡くなられた大震災も今年で5年の月日が経ちました。大震災が起こった同時刻に法要をお勤めいたします。

春季彼岸会

3月20日(日) 午後1時～

ご講師 山崎龍明 師
(東京都 法善寺)
心に彼岸(お浄土)を思い、お聴聞いたしましょう。



キッズサンガ子ども会

3月26日(土) 午前10時～

劇団・前進座ご協力のもと、演劇・紙芝居を行います。どうぞ、ご家族でご参加ください。

お仏飯米のご進納

高田慶彦様 森澤忠和様

年末年始のご進納

村中秀行様 山下肇様

村井保夫様 高田慶彦様

菅野ヨシコ様

ありがとうございました。

編集後記

冒頭にも掲載しましたが、先月の雪で、交通ダイヤが乱れたり、雪かきなどで大人にとってはウンザリでしたが、長女は逆に大喜びで、雪の中を駆け回っていました。

雪を見て喜んでいたり子ども時代を懐かしく思いました。(安)



東久留米会館会報

「ともしび」

第238号

発行日

2016年2月1日

発行者

安邊 泰教

住所

東京都東久留米市柳窪5-8-30

電話

042-474-6787